

晴夕のつらふての秋く
挿温息の風

吐文添部(七)文里の流温息はあま
ま川てのやこらるは人々のあま
力な病もちてはあまするはあま
かすもさつ病は山形子なりやめる
すもさつ病は山形子の木の根岩
すもさつ病は山形子の木の根岩
すもさつ病は山形子の木の根岩
すもさつ病は山形子の木の根岩

志しけく酒をすめし
うかめしをすめし

小坊らやを

客吐文

柳一葉

咲るの智恵もいぬや

相伴岩

木檀さく

朝の病なぬ

主乙堂

都の風

